

27日から開かれていた核兵器禁止条約第2回締約国会議は1日、政治宣誓や活動方針などを採択して閉幕しました。締約国会議は同条約の運用を促進するために2年に一度開かれます。今回は、ロシアやイスラエルが核兵器使用の脅迫を行い、他の核保有国も核戦力の維持・強化を図るなど、重大な逆行のもとで開かれました。それだけに、締約国会議が核兵器廃絶への力強い決意を示したことは大きな意義があります。

高まる実効性と規範力

全会一致で採択された政治宣言は「核リスクの増大と危険な核抑止の永続化を傍観」しないと述べ、「現在および将来の世代のために、

12/4/34.79

主張

第2回締約国会議

核兵器のない世界を実現するため
に不斷に努力する」と表明しまし
た。赤十字国際委員会の代表は
「禁止条約は最も暗い時代であつ
ても前進は可能だ」とこうしたことを証
明している」と発言しました。核
兵器廃絶を願う人々の希望と闘気
を与えた会議と重ねておきましょう。

情勢切り開く核兵器禁止条約

核兵器のない世界を実現するため
に不断に努力する」と表明しまし
た。赤十字国際委員会の代表は
「禁止条約は最も暗い時代であ
り、最も明るい時代でもあります。
でも前述は可能だと信じています。
明していく」と発言しました。核
兵器廃絶を願う人々に希望と勇気
を与えた会議と聞えます。

多くの参加国が、核兵器固執の
論理とされている「核抑止」の危
険と矛盾を指摘し、その脱却が急
務だと訴えました。それに向け
て、多くの参加者が、核兵器の使
用による威嚇は国連憲章を尊重す
る行為であるとして、明示的
であり暗示的であり、核兵器による
いかなる威嚇も「明確に非難」
しました。これは今日の情勢と照
らして特に重要です。ロシアへの
制裁に賛成であっても参加国は一致
して、核兵器が破滅的な非人道的結
果をもたらすことへの認識を広げ
ることが不可欠です。今回の会議
でも、被爆者や核実験被爆者が積
極的な役割を果たしています。

2025年の次回会議までに新
たな科学的知識も踏まえて「核抑
止」の危険を明らかにし、「核抑
止」の実現を図るために、核兵器・規範力を高めていきます。

情勢切り開く核兵器禁止条約

実行、そのための国際協力などが確認され
ました。被爆者の苦しみが続き、多くの人が救済され
ていません。被爆者支援と環境修復
が課題です。被爆者支援と環境修復
を財政的に援助する「国際協定」
の設立に向けた指針について
や修復の計画策定、

日本政府は參加決断せよ
米國に參加していくに國むの柔
じて衆に對する活動には努力で數
るはずだす。締約國會議にオーバー
バー參加したドイツが、これい
の活動に關わっていかず手段を總務
してくると強制し爲した。唯一の
戰爭被禦國の日本が協力するの
か「拒むのか」姿勢が問われます。